

アメリカシロツルの鳴き声

アメリカシロツルの個体数回復への道のりは、多くの脅威に直面しています。テキサス州では、アースウォッチボランティアが研究者に協力し、渡りをする最後の野生の個体群と、そのツルたちがこの先何年も利用する生息地を確実に守るために活動しています。

—ダイアナ・ベル—

一つ星州(テキサス州の俗称)への飛来

テキサス州のメキシコ湾岸地域は平坦な土地です。余りにも平坦なので、何マイルも先の油田掘削機が見えるくらいです。コーパスクリスティ国際空港から車で1時間半走ると、オースウェルという面積 0.4 平方マイル、人口 149 人から成る街に着きます。最近になって拓かれた広大な土地に無数の畝が並び、畝の縞をところどころで未舗装の道路や今にも倒れそうな納屋が分断しています。

その週、私が滞在するのはホッパーズランディングにある小さな白い小屋でした。長い間、釣り人たちが季節ごとに利用し、年季が入っていましたが、そこでは到着した私をサンアントニオ湾が出迎えてくれました。そして、たった 3 マイル道を下れば、アランサス国立野生生物保護区の入口があります。そこは 114,657 エーカーの保護された湿地帯で、絶滅の危機にあるアメリカシロツルの越冬地です。

このツルは、雪のように白い羽と鮮やかな赤い頭頂部を持ち、注目せずにはいられない鳥です。北アメリカでは最も背が高い鳥で 5 フィートもあり、翼を広げるとその 1.5 倍(約 2m30cm)にもなります。アメリカシロツルは 15 種のツルの中で最も稀少な種で、その存在は環境保護の力と彼らを守る人々の堅い決意の証です。

私同様、皆さんもメキシコ湾岸地域に住む人々は、油田の掘削と水の供給という並外れた二つの巨大産業があれば、ツルの保護など気にしないだろうと誤解しているかもしれません。しかし、アメリカシロツルはこの地域の自然環境の中で孤立した存在ではなく、その全体像の一部になっています。

地元の人々は本当にこのツルの存在を喜んで受け入れていて、年に一度アメリカシロツルフェスティバルを主催しています。住民たちは、毎年危険な道のりを辿り、自分たちの故郷でもあるこの土地を選んで戻って来る鳥を誇りに思っているのです。

3 月、私は1週間のツルと生息地調査を初めて体験し、その過程でツルたちがそれほ

ど大切にされている理由を理解し始めました。その時、私はアースウォッチの調査プロジェクト“テキサスのアメリカシロヅルと生息地の保護”にボランティアとして参加する機会を得ていました。正直なところ、不安を抱きながら参加したのです。アースウォッチが世界中で支援するたくさんの個性的な生物種や魅力的な地域、調査プロジェクトがある中で、私にとってアメリカシロヅルとテキサスは優先順位が低かったのです。これまで鳥にはあまり興味を抱いたこともなく、テキサス州は行きたい旅行先リストの一番ではありませんでした。

しかし、ただこの奇妙なツルに興味を持ち始めたというだけでなく、彼らのうるさい鳴き声も、冷淡なふるまいでさえも、すべてを愛おしいと思うようになりました。彼らについての話に夢中になり、沿岸地域にも魅力を感じるようになりました。

一日の始まりはいつも水の上から始まりました。調査船に乗って海岸線沿いに航行し、チームメイト同様、私も双眼鏡を片手にひたすら白い羽の鳥を探しました。太陽が昇り、風が私たちの髪をなびかせるようになると、イルカたちが姿を現し、いとも簡単に船の航跡をくぐっていきました。これは私のお気に入りの朝の風景となりました。もう一つの楽しみが、ツルのつがいがその日最初の餌をあさる姿を見つけることでした。私たちの存在に気付くたびに、薄汚い植物の上にツルの頭がピョコッと飛び出すのです。

アランサス国立野生生物保護区は特定の植物や動物を守るものではありません。保護の対象は、互いに影響し合う、複雑な相互関係に満ちた生態系全体であり、たまたまその一部をアメリカシロヅルが担っているのです。ここでは多くの人々が保護に関わっていて、フェイペ・プリエト氏もその一人です。彼は合衆国魚類野生生物局における野生生物保護区のスペシャリストです。

「このような地域を保全し、その場所の自然資源について話すことが重要なのです。お分かりの通り、ツルたちは言葉を話しません。樹木も動物たちも話しません。だから私たちが彼らの代わりに話さなければならないのです」と彼は言いました。

確実な保護

アメリカシロヅルは気難しい生き物で、彼らの生息地には広大な土地が必要になります。1 つがいのアメリカシロヅルには 125～500 エーカーもの土地が必要で、何年にもわたって彼らは自分のナワバリを全力で守ります。ツルたちはアランサス国立野生生物保護区とその周辺地域では保護されていますが、これらの土地の境界の外に迷い出た時にはトラブルに巻き込まれる可能性があります。

しかし、親しみを込めて“whoopers(騒ぎ屋)”と呼ばれるこの鳥たちには、心強い味方がいます。カナダとアメリカ合衆国双方の政府組織や彼らを絶滅危惧種に指定している連邦の保護から、国際ツル財団や国立オーデュボン協会のような保護組織、熱心な個人活動家たちまでもが鳥たちを援護しています。絶対に突き通せない盾というわけではありませんが、彼らの力によってツルたちは絶滅の危機から守られてきました。

エリザベス(リズ)・スミス博士はこの盾の 1 人です。アメリカシロヅルの研究主幹として、また国際アメリカシロヅル財団のテキサスプログラムの担当責任者として、彼女はアメリカシロヅルの明るい未来を維持するには私たちはどれほど勤勉な努力をしなければならいかをよく知っています。

「行政機関や NGO を含むツルの保護組織は力を合わせ、狩猟者たちが誤ってアメリカシロヅルを撃たないように教育しようとしています。生命を敬わず、ただ撃ち殺すためだけに狩猟をするような野蛮な狩猟者もいます。私たちはそのような行為を許さないということを示すため、彼らが確実に起訴されて厳しい判決を下されるようにしようとしています」とリズは言いました。

昨年、ルイジアナ州に再導入された個体群の中の 2 羽のアメリカシロヅルがテキサス州東部で撃ち殺されているのが発見され、環境保護団体がすぐに行動を起こしました。地元の農家の証言により、テキサス州狩猟管理人と合衆国魚類野生生物局の専任係員が 18 歳の犯人、トレイ・フレデリックを捕えました。そして狩猟者たちが名乗り出て悪意を以って罪を犯したことを詳細に話しました。

フレデリックの罪状認否手続きの間、リズは彼の行動をいくらかでも理解し、彼が犯した間違いをよく理解できるようにしたいと考えて彼と話をしました。

「彼は本当に後悔して見えるようにしていましたが、その罪を犯すまでの過程にはとても多くのことがあったと私に嘘をついたのです」と 5 月にリズはインタビューの中でそう言いました。「彼には説得力がありました。私は彼に罪を認めるように勧め、そうしたら彼が人生を立て直すのを手伝うために私たちに何ができるかを考えると話しました。彼は、自分がやったと認めましたが、罪を逃れられる可能性があるから罪状認否で自分は有罪だと言う気はないと言いました。私にとって、ある意味で納得できる答えでした」

絶滅危惧種保護法によれば、故意に絶滅危惧種の動物を危険にさらす、あるいは死に至らせた場合最も重い刑は、100,000 ドル以下の罰金と 1 年間の懲役です。しかし

実際の判決は、どこでも 1 ドルから 85,000 ドルの罰金で、めったに服役が課せられることはありません。

この事実を知って、リズはフレデリックの事件を担当した裁判官と地方検事に手紙を書き、その中で一羽一羽のツルの養育には多大な時間と労力、費用がかかることを説明して、フレデリックに最も重い判決を下すよう求めました。

「狩猟者がしたことは、ただ 2 羽のツルを殺したというだけではありません。彼は政府やカナダと合衆国の NPO が投資をした貴重な資金を盗んだのです。そして、この絶滅の恐れと必死に戦っている種の存在を、さらに危険にさらしたのです」

裁定が下された時、リズは喜びました。フレデリックには約 26,000 ドルの賠償金と 200 時間の社会奉仕、そして 5 年の保護観察処分が言い渡されました。その間、彼の狩猟・漁業免許は 55 の州すべてで取り消され、銃器の所有も禁止されました。

「彼は若く、私たちは彼が変われると願いました。彼がやり直せるかどうかは時が教えてくれると思っていました」とリズは言いました。

今のところ、この若者はそれほど進歩していません。彼が公道からイノシシ狩りに参加し、動物虐待防止法を犯したとの極秘情報が当局に入ったのち、今年 7 月に彼は連邦刑務所での 11 か月の懲役を言い渡されました。（そのおぞましい詳細については、ソニア・スミス氏が『Texas Monthly』に掲載した記事を読んでください。）

この問題を厳しく深刻にとらえる姿勢は、アメリカシロヅルの個体数維持の観点からみれば良い傾向にあると言え、その傾向は今もまだ続いていると、リズは期待をよせています。

「いつの日か、かつてのように合衆国南部全域で彼らの姿が見られ、ほかの場所でも空を舞い、営巣する姿を見たいです」と彼女は語りました。

願いはその翼とともに

一時、アメリカシロヅルの個体数は 10,000 羽前後だと見られていました。しかし 1941 年には渡りをする個体はたった 15 羽しか残っていませんでした。この個体数激減の原因は、過剰な狩猟圧と生息地の喪失です。それ以来、この種の復活には長い時間がかかりました。このツルたちを絶滅危惧 I B 類から絶滅危惧 II 類までランクを下げるためには個体数を 1,000 羽まで回復させる必要があります。最近の数字は 650 羽前

後です。目標達成は決して不可能ではありませんが、時間と継続的な保護の努力が必要です。

カナダのアルバータ州の先端にあるウッドバッファロー国立公園では、アメリカシロヅルが浅瀬の真ん中で植物を集めて営巣しています。こうすれば、捕食者が近づいて来たら簡単に気づくことができます。多くの場合、この鳥は産卵期に1~3個の卵を産み、抱卵から一月後にはヒナが誕生します。ヒナは早急に生き抜くための術を身に着けなければなりません。通常、生き残るヒナは1羽だけです。ヒナの間引きは当たり前のことなのです。わずか数か月後、彼らは南へと旅立ちの時を迎えます。

12月の初め、ふわふわの白いまだら模様がテキサス州、メキシコ湾岸の湿地帯に現れます。ツルたちが結婚相手を探しにやって来たのです。それから4~5ヶ月間、彼らは見つけられる限りのワタリガニとクコの実を食べまわります。そして、この場所で私は彼らを見つけ、双眼鏡を通して彼らの行動を観察しています。

私は水生生態学者のジェフリー・ウォズマック博士と鳥類生態学者のリンセイ・ティーズ博士とともに作業し、他には9人のアースウォッチメンバーである市民科学者たちが同行していました。1人がタイムキーパーを担当し、もう一人が鳥の行動を記録し、その他の人たちは鳥から目を離さず、目に入る鳥の行動を声に出して報告しました。

「3、2、1、記録して！」

「食べた！」

「警戒してる！」

「毛づくろい！」

「休んでる！」

「移動した！」

なぜツルの行動を記録することが重要なのでしょうか？ツルを観察することで、私たちは彼らの生息地について知ることができるのです。もし鳥たちが食べものを探して湿地を歩き回るのに時間をかけていたとしたら、その生息地はあまり資源に恵まれていないと推測することができます。また、もし食べたり、休んだり、毛づくろいをするのに時間をかけていたなら、そこは食料が豊富にあることとなります。もし彼らが首をまっすぐ伸ばし、くちばしを地面と平行にして警戒したとしたら、それは危険を察知し、警戒しているということです。もしかしたら飛行機や船が通過したかもしれませんし、他のツルが自分たちのナワバリに侵入しているのかもしれません。

私たちは300ヤード(約275m)離れた場所から鳥たちを観察し、彼らがナワバリの中

にいなかったときにはこっそりその領域内に入って調査しました。糞と泥だらけの湿地を重い足取りで行き、調査区域を設定し、クコの実とワタリガニを数え、水の塩分濃度を測りました。

ジェフは極めて重要な生息地のデータを得ただけでなく、より完全な地図を作成することができたと言っていました。「我々はいつもすべてのパズルのピースを手にしていくわけではありません。だからこそ、またここに戻ってくるのです。この生態系はどのように営まれているのか、人間の影響はどうなのか、そして我々はその影響をどれだけ軽減できるかを理解することが重要なのです」

そして、私が参加した週の10名のアースウォッチメンバーの手助けによって、ジェフとリンセイは必要なデータを収集し、しかもより短時間でその作業をこなすことができたのです。

「アースウォッチメンバーがいれば、より多くの調査地に行けるし、より多くの時間を湿地で過ごせるし、より多くのデータを集められて、より多くの鳥を観察できるようになります。私たちの活動を最大限に生かすことができるのです」とジェフは言いました。「私たちはデータがなければパズルを完成させることができません。そしてアースウォッチの皆さんがそれを可能にしてくれるのです」

私たちが作業をしたのはたったの1週間でしたが、今回の調査結果を加えることで、より多くのデータが蓄積されました。私はアメリカシロヅル保護活動の物語の一端を担ったのだと実感せずにはいられませんでした。これからも、この物語にはたくさんの章が織り込まれていくでしょう。そして何より大事なことは、ハッピーエンドを迎えることです。

12月～3月にテキサス州で実施されるアースウォッチの調査プロジェクト“アメリカシロヅルと湾岸生息地の保全”に参加して、この威厳のある鳥たちを自分の目で見るという体験をしてください。